

長野県のアメリカネナシカズラ

高橋 秀 男

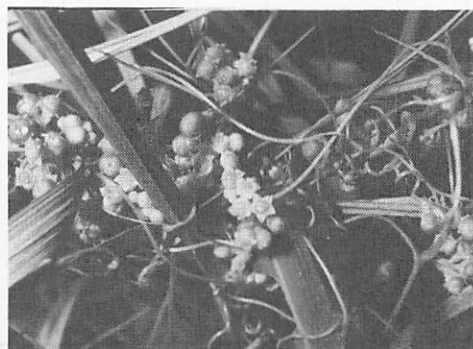
H. Takahashi: On *Cuscuta pentagona* in Nagano Prefecture

1978年8月24日付信濃毎日新聞紙上に「野菜や花の敵アメリカネナシカズラ異常繁殖」として、上田市の例が記事となっていたが、筆者も最近県内の2ヶ所で見出したので報告しておきたい。

浅井康宏(1974)は各地に異常繁殖しているマメダオシまたはハマネナシカズラといわれているものに注目して研究の結果、北アメリカ原産の *Cuscuta pentagona* Engelm. と同一種であるとの結論に達し、アメリカネナシカズラと新称した。この種は最近全国各地の川原や路ぼう、空地などに異常繁殖し、ときには栽培植物にも被害を与えている。

新聞記事によって上田市の例を見ると、発見者は上田市下之郷の村上隆で、自宅の近くにある尾根川と三郎川の合流点に約2㎡にわたって繁殖していたようである。

筆者の第一の発見地は駒ヶ根市太田切川の川原で、1976年駒ヶ根市を含む木曾山脈のフロラを調べた際に採集した。最初マメダオシとしてリストにあげていたが、校正のときに再検討して訂正したもので、危く誤認するところであった。太田切川の川原にはほかに *Cuscuta* 属のネナシカズラも見られたが、アメリカネナシカズラもかなり広範囲にわたり、カワ



ラヨモギを寄主としていた。

第二の発見地は穂高町犀川の川原で、1978年8月31日にちょうど開花期の一群に出合った。アメリカネナシカズラは寄主の選択的嗜好性はないようであるが、ここも寄主はカワラヨモギであった。

現在、長野県内にはアメリカネナシカズラがかなり広がっている可能性があり、逆にマメダオシは減少の傾向にあるようで、長野県植物誌調査にあたり、今までマメダオシといわれてきたものについて再検討をお願いしたい。

〔植物ニュース〕32. マムシグサ *Arisaema serratum* var. *blumei* Makino

われわれは、先に南安曇郡堀金村の田尻神社境内のマムシグサ集団442個体について形態的変異と球茎重および性表現の関係を調査し、その結果を報告した(本誌11号54~56頁)。

この調査の1年後、1978年6月上旬の花期に再び現場を訪れ、同ような調査をくり返した。ところで、前年すべての個体に荷札で番号をつけたが、61個体については改めてその番号を確認することができた。そこで、これら61個体の性を調べたところ、9個体に性表現のちがいがみられた。内訳は、雄から雌へ転換したものの7個体、雌から雄に転換したものの2個体である。これらの9個体の性および両年度の地表面における偽茎の直径を表に示す。前報のよう

$$W = 0.04 D^{2.29} \quad (\text{湿重の場合})$$

によって与えられ、球茎重10g附近で雌雄がほぼ分離する。この球茎重

の値は偽茎直径1cm附近に当るが、前年直径1cm以下であった本年1cm以上になった個体(1,2,3,4,6)は雄から雌へ、逆に直径が1cm以下になった個体(8)は雌から雄へ転換したことがわかる。古くSchaffnerや前川らが栽培実験に基いて指摘し

たような球茎重の増減による性転換が自然条件下でも起っていることが確かめられたわけである。

(木下栄一郎・清水建美)

性	個体	1977	1978
♂	1	4.7mm	11.8mm
	2	7.1	15.3
	3	9.1	14.0
	4	9.5	12.9
♀	5	9.7	8.6
	6	9.9	17.1
	7	19.4	20.0
	8	10.7	4.5
♀ ↓ ♂	9	11.2	12.7